周防・長門国境碑
（割木松）
江戸時代の文人、蜀山人の小春紀行の文中に「ここに割木松といふ野立場あり道の左に石表あり、西長門国厚狭郡、東周防国吉敷郡と彫れり」とあるのがこれである。なお国境線は割木松～川上～鍋島へ続いている。

熊野神社（上山中）
神社のあちこちに大小の庚申塔がある。昔街道を行き来した人達が旅の安全を祈ったものであろうか？　当時の宿駅の盛況がうかがえ興味深い。この神社には14世紀末頃、ここらあたりの開拓者である伊藤彦四郎が大内弘世の許しを受けて、熊野から勧進したと伝えられている。

つるまんりょう　熊野神社(上山中)
社殿の西の斜面に自生するツルマンリョウは、佐波郡徳地町の出雲神社のものと共に、山口県の天然記念物に指定されている。

鷹ノ子山
文中3年（1374年）3月菊池武光が子武政に五千騎を附し、厚東幸政を助けて鷹の子山に陣し、大内軍と戦った古戦場である。

八畳岩【弁慶の足跡】
霜降山に片足あり、両方に足をかけて小便をした。それが厚東川になったと伝えられている。

薬師堂（下山中）
宇部市史寺社由来に「…右往古は医王山西福寺と申寺号有之候由申伝候、宗旨何宗とも相知不申候拾貳年二壱度宛開帳被被差免候、御証文等無座候得共、往古大内弘隆殿眼病ニ付山中薬師尊江御立願被成、則御病平愈…」とあり、大内氏系図を見ると弘隆は無く隆弘はあり、それであるとすると尊念寺ができるより余程前から下山中薬師様は祀られていたものらしい。

駒の頭遺跡（車地側）
南北時代の正平年間（1346年～69年）に、木田の藤本五左衛門が木田平野の南半も美田化するため考案施工した川越噴水による灌漑設備であり、これを地元では当時の噴水式冷却器の名をとって駒の頭と呼び、この付近の地名も俗に駒の頭と呼ぶようになった。現在はふれあいセンター横に移設保存してある。

里山ビオトープ二俣瀬（車地）
この里山ビオトープ二俣瀬は多くのボランティアのみなさんによる手作りの里山ビオトープで、周辺の景色は四季折々の里山の顔を持っている。

一里塚跡（須賀河内）
江戸時代、萩から宇部に通ずる道路の一里塚の松で昔は老松が立ち憩の場となり風致もそえていた。二俣瀬に現存する唯一の一里塚で、山口県内でも僅かしか残っていない貴重な史跡である。

ナツツバキ（須賀河内）
宇部市の天然記念物として指定される。
ナツツバキは樹齢約100年で高さ10m、夏にツバキのような白い花を咲かせることからこの名前で呼ばれている。宇部市では、二俣瀬地区に限定して自生し、指定される木は県内有数の巨木である。

甲石〔かぶといし〕(宇部テクノ団地)
源平の合戦で悪七兵衛景清という者が戦いに敗れて逃れてきて自分のかぶとを山の上に置いて休んだ。その甲がこの石になったと伝えられている。
テクノーパーク造成後、現在地へ移転保存。

鋳物師釜跡〔いもじがまあと〕(宇部テクノ団地)
伊豆国の浪人、伊藤彦四郎入道が應永元年（1394年）、山中の地に来て、大内氏の許容を得て深林を開き新に宿駅を立て、この地で鋳物業を営んでいた跡である。

船岩（善和）
二俣瀬村入会林野整理委員は、山野争論終結を記念し、大正5年頃青岳北北西尾根で争論の地を一望できる、船岩を中心に植樹を行い、井関・佐山・東岐波・西岐波・二俣瀬5ヶ村共有の記念林を設定した。

善和八幡宮（善和）
明治3年3月、山口の今八幡宮から分霊を歓請して祭られた。車地間地と井関間地との境界不明のため江戸末期、長年月に亘り紛争が絶えなかったのを慶応3年、山口の藩庁は間地一体を独立単独の行政区域とし、地名も善和と改め善和率判を置き、住民の氏神として善和八幡宮を創建した。